

平成21年度

学校と地域を結ぶコーディネーター養成研修会

日時:平成21年6月5日(金)9:30~16:00

場所:宮城県自治会館 200~201会議室

参加者	区分	学校	地域	行政	団体	合計
	大河原教育事務所管内	8	3	5		16
	仙台教育事務所管内	13	6	11		30
	北部教育事務所管内	5	3	5		13
	北部栗原地域事務所管内	4	1	2		7
	東部教育事務所管内	8		3		11
	東部登米地域事務所管内	4	1	1		6
	南三陸教育事務所管内			1		1
	その他				1	1
合計		42	14	28	1	85

1 開会

2 開会のあいさつ

宮城県教育庁生涯学習課社会教育専門監 澁谷 秀昭
< 挨拶 >



・これからの教育のポイントは、学校・家庭・地域の連携、協力を強化して社会全体の教育力を向上させる「協働教育」の取組にある。

・「協働教育」の推進のポイントは、何といたっても「人」であり、それぞれ地域にある「人・もの・こと」を発掘し、それを繋ぐコーディネート力や機能が何よりも大切である。

・本研修会には、学校の教職員、社会教育及び生涯学習関係職員が一同に会していることは、学校教育と社会教育が大きく窓を開き、学校と地域を結ぶ基盤を感じ取ることができる。

・本日の研修会が有意義になることを祈念する。

3 諸連絡

4 講演 「学校・地域の協働による地域の教育力の向上を目指して」 < 挨拶 >

講師 全国体験活動・ボランティア活動センター コーディネーター 木村 清一氏



・「学社連携・融合」という言葉は使われはじめてからずいぶんなるが、学校は十分に理解していないのが現状である。場合によっては、学校支援ということは余計なことといった考えすらある。また、子どもたちの遊びは「集団から個へ」、「外から内へ」といったように変化してきている。

・こんな時代だからこそ、自分のからだをとおしているいろいろなことを覚えていく体験活動が重要となってくる。そのための一つの手立てとして「学校支援ボランティア」を活用することは非常に有効である。

・学校と「学校支援ボランティア」は対等な関係であり、お互いを認め合う関係でなければならない。「学校支援ボランティア」には、「学習支援」、「学習環境のサポート」、「安全支援」といった3つのタイプが考えられるが、自分たちの地域に合致していること、継続させることが大切である。

といった3つのタイプが考えられるが、自分たちの地域に合致していること、継続させることが大切である。

5 講演 「学校支援ボランティア・プログラムにおけるコーディネーターの役割」 < 抜粋 >

講師 全国体験活動・ボランティア活動センター コーディネーター 木村 清一氏



・学校支援ボランティア・プログラムを充実・発展させるためには、「学校と地域を結ぶコーディネーター」、「学校におけるコーディネーター」、「地域におけるコーディネーター」の3者が必要である。

・「学校と地域を結ぶコーディネーター」は、学校支援ボランティア・プログラムを推進する中心的なリーダーであり、学校と地域を結ぶ仲介者としての役割や学校支援ボランティア・プログラムを普及する役割を担う。

・「学校におけるコーディネーター」は、学校のボランティアニーズを把握し、地域におけるコーディネーターや教育委員会等との連絡調整を行う。学校内における調整役の役目も担う。

・「地域におけるコーディネーター」は、学校のボランティアニーズ等の情報収集、地域に対する情報の提供、学校職員との連絡調整、学校支援ボランティアに対する相談・助言等を行う。

6 質疑応答及び情報交換 < 抜粋 >

「学校におけるコーディネーター」に関して

・学校の実情からいうと、教諭には学級経営をはじめとした校務分掌があり、「学校におけるコーディネーター」を兼務することは本校では正直難しい。学校の規模が小さくなればなおさらであると思われる。(小学校教諭)

・学習指導要領の改訂にともなって授業時数が増え、学校支援ボランティアとの十分な打合せの時間の確保が難しい。(小学校教諭)

・地域でやれることはできるだけ地域でやれるようにし、学校には本来の学校としての役割が果たせるように行政として支援している。各学校に、「協働教育担当者」を配置してもらい、教育委員会や地域コーディネーターとの連絡調整を担ってもらっている。教員の負担は確かに大きいとは思われるが、子どもに対するメリットが大きく、活動自体の楽しさが伝わってきている。(行政職員)

ボランティア登録している人たちの活動の保証

・ボランティア登録している人たちが活動できる場面を設定することは非常に大切である。学校支援以外にも、公民館や福祉団体等での活用を考えるなど他の場面でも活用できるようにすることを考えてみてはどうか。学校には学校のルールがあることをボランティアの方に理解してもらうことも大切である。(木村講師)

地域コーディネーターとしての地域の人たちへの働きかけ

・学校支援ボランティアとしての活動は、ライセンスの向上には直接つながるものではないが、自己啓発、自己充実感、自分を高めていくことに価値がある。人と出会うことで自分が変わることなどボランティア活動のよさをアピールしていただきたい。(木村講師)



7 閉会

次回の研修会は、11月11日(水)です。2回続きの研修会ですが、2回目だけの研修会への参加も可能です。ぜひ、ご参加ください。